

県民意向調査における施策と将来像の重要度に関する分析

An Analysis on The Priority of Goals and Programmes
by Questionnaire for Inhabitants of Prefecture

印南洋之* 桑名正史** 野倉 淳*** 木下栄蔵****

by Hiroyuki INNAMI, Masashi KUWANA, Astushi NOKURA, and Eizo KINOSHITA

1. はじめに

本報告は、栃木県の総合計画（県行政全般に渡る五箇年の基本計画）の策定作業の一環として実施した県民意向調査における、県政施策の評価と将来像の選択に関する分析の新たな試みを取りまとめたものである。この県民意向調査は、1,604名の学識経験者、各種団体役員、企業経営者等を対象として、県政に対する県民ニーズと、将来の本県のあるべき姿（将来像）に関する意向を把握するために実施したものである。

ここで、県政に対する県民ニーズの把握については、県政施策の現状の満足度と今後の期待度を調査し、両者の関係に基づいて、施策のタイプ分類を行うとともに、相対的な施策の重要度の分析を行った。

県の将来像に関する意向の把握については、県政の基本的方向を明らかにすることを目的として、最新の意思決定手法である「階層分析法（AHP）」を活用して、将来像の代替案を評価し、代替案の比重を求め、さらに、施策の重要度と関連付けることにより、将来像のイメージの具体化と求められる施策の分析を行った。

ここで、「県の将来像」は、多様な要素を含んだ複合的イメージであり、また、それらを選択する上で様々な評価基準が存在する。そこで、AHPを活用することによって、評価基準の総合化を行い、県の将来像に関する県民の複合的イメージの一端を説明することを試みたものである。

2. 県政施策の満足度と期待度に関する調査方法

県政の現状の満足度と期待度については、現在の県政施策の枠組みとしている37項目の施策について、段階評価を行う形式とした。

現状の満足度については、「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」の5段階とし、今後の期待度については、「現状以下」「現状程度」「やや推進」「積極的に推進」の4段階とした。

3. 県の将来像に関する調査方法

(1) AHP手法とは

階層分析法AHP (Analytic Hierarchy Process) は、不確定な状況や多様な評価基準における意思決定手法であり、問題の分析において主観的判断とシステムアプローチをミックスした問題解決型意思決定手法の一つである。

AHP手法による問題の解決は、問題の要素を
▷最終目標 — 評価基準（要因） — 代替案
の関係で捉えて階層構造を作り、最終目標に対する各代替案の比重を求めるものである。

この一連の評価（一対比較）の過程で、経験や勘を生かした主観的判断を取り入れており、これまでにモデル化や定量化が困難であった問題を扱うことを可能にしていることが特徴である。

(2) 調査票の設問

AHP手法に基づいた設問として、評価基準1組、各評価基準からみた代替案4組、計5組の一対比較を設定した。各組は4項目の比較であり、それぞれ6通り（ $= {}_4C_2$ ）、合計で30通りの一対比較を行うものである。実際の調査票では、回答欄の左右に示された評価基準及び代替案の一対評価を、「左側が非常に望ましい」から「右側が非常に望ましい」までの7段階で評価する形式とした。

【キーワード】 意識調査分析／満足度、期待度、重要度、AHP

*正会員 栃木県企画部企画調整課

（〒320 宇都宮市埴田1-1-20 TEL 0286-23-2206）

**正会員 駒とちぎ総合研究機構

（〒320 宇都宮市中央3-1-4 TEL 0286-32-5050）

***正会員 榊野倉計画事務所

（〒114 東京都北区滝野川7-40-6 TEL 03-5974-9356）

****正会員 工博 名城大学教授

（〒468 名古屋市中天区塩釜口1-501 TEL 052-832-1151）

4. 県政施策の評価に関する分析結果

(1) 満足度と期待度の関係と施策の分類

満足度と期待度の分析においては、満足度の5段階の評価に対して-2点から2点（不満が-2点）の得点を与え、期待度の4段階の評価に対して-1点から2点（現状以下が-1点）の得点を与えることによって、全回答者の平均点を求め、各施策の満足度及び期待度の値とした。

満足度を横軸、期待度を縦軸とした37施策の分布状況は図1のように示され、概ね、満足度が低い施策ほど期待度が高い傾向となったが、満足度と期待度の関係ならびに施策の内容から判断し以下の4つのグループに分類された。

- 【Aグループ】 不満が高く期待も高い施策
早急かつ積極的な対応が望まれる施策
例：下水道、ゴミ処理、道路・交通機関整備
- 【Bグループ】 不満は低いが期待が高い施策
将来の社会動向への対応などから現行施策の充実や新たな展開が期待される施策
例：高齢者福祉、文化振興、生涯学習社会形成
- 【Cグループ】 不満が高い割に期待が低い施策
県民と行政の意識のズレがあるなど、行政の関わり方や施策展開の視点の見直しが求められる施策
例：過疎対策、雇用の安定、資源エネルギー
- 【Dグループ】 不満も期待も低い施策
現状施策の維持あるいは施策方針の再検討などが求められる施策
例：学校教育、健康づくり、自然災害防止

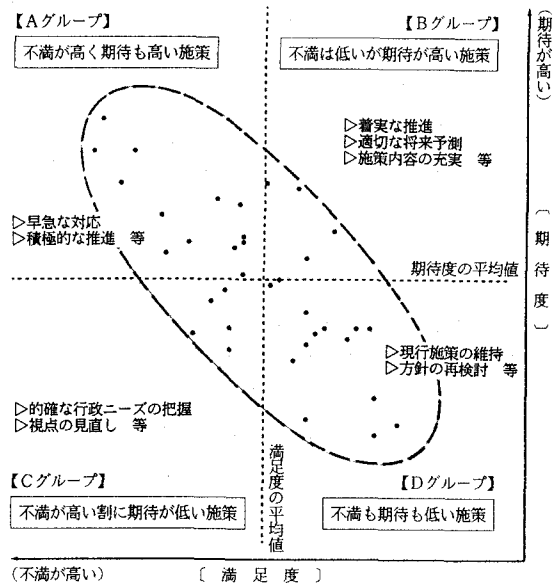


図1 満足度と期待度の関係と施策の分類

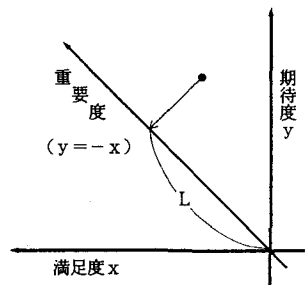


図2 施策の重要度の算定方法

(2) 施策の重要度の分析結果

満足度と期待度は負の相関があることから、不満なほど期待の高い成分軸を設定し、各施策の分布位置からこの軸に直角投影し、原点からの距離を求め、これを施策の「重要度」とし、各施策の相対的な関係を求めた。ここで、新たな成分軸は期待度=-満足度 ($y = -x$) の直線とした。(図2参照)

重要度の値が正規分布をしているものと仮定し、全体の平均値を基準に標準偏差を用いて、重要度を5つのランクに区分した。この結果、最上位にランクする施策は、下水道、ゴミ処理、道路・交通機関整備、都市景観の4つの施策が位置づけられた。

(図3及び表1参照)

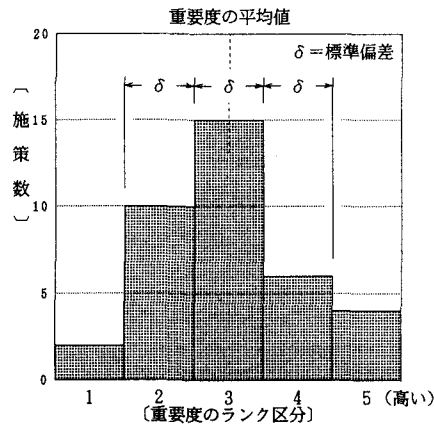


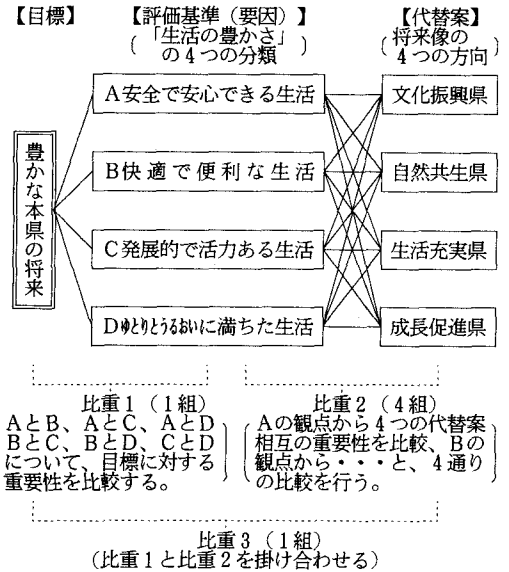
図3 重要なランク区分と施策の頻度分布

5. 県の将来像の分析結果

(1) AHP問題の階層構造

県民意向調査においては、「『県民の一人ひとりが豊かさを実感できる栃木県』を実現するために、県の将来像はどうあるべきか」という設問を設け、図4に示す階層構造のもとにAHPを適用した。

『県民の一人ひとりが豊かさを実感できる栃木県』という最終目標に対して、「文化振興県」「自然共生県」「生活充実県」「成長促進県」という県政の基本となる4つの方向を持った将来像を代替案として設定したものである。代替案の評価基準は個人の生活に視点を置き、「安全で安心できる生活」「快適で便利な生活」「発展的で活力ある生活」「ゆとりとるおいに満ちた生活」の4項目を設定した。



(2) AHPにおけるウェイトの計算結果

AHPの最終計算結果である評価基準のウェイトと代替案のウェイトは図5及び図6に示すとおりである。これらは、有効回答 797名の個人別AHPの平均値である。

これによると、県の将来像の4つの代替案のウェイトは大きな差はないが、優先順位として、生活充実県、自然共生県、文化振興県、成長促進県の順となることが示される。

(3) 4つの代替案ごとに期待される県政施策

全体平均では4つの代替案のウェイトは比較的接近した値となっが、個人毎の評価でみるといずれかの代替案のウェイトが高い値を示している。そこで、優先する代替案によって回答者を4つのグループに分け、このグループ区分と、「県政の満足度と期待度」による施策の重要度とをクロス集計することによって、代替案ごとに期待される県政施策の優先順位を分析した。

分析の結果は表1に示すとおりであり、各代替案にとって重要であると想定される県政施策が上位のランクに位置付けられ、それら施策と相反する要素を持った施策が相対的に下位に位置付けられる。

この施策の順位付けによって、各代替案のイメージについても、より具体的なものとなった。

図4 「県の将来像」選択の階層構造

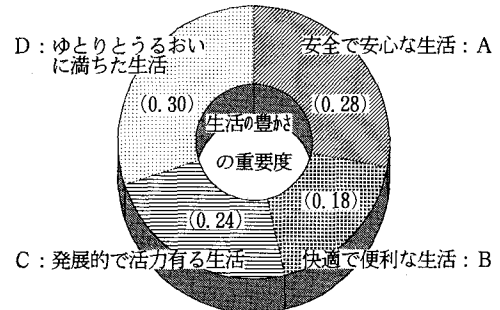


図5 評価基準（4つの生活）のウェイト

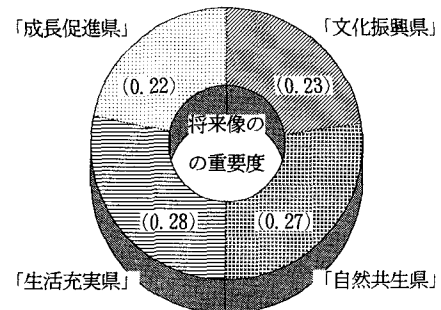


図6 代替案（4つの将来像）のウェイト

表1 将来像の代替案ごとに期待される県政施策

ランク	全体平均	文化振興県	自然共生県	生活充実県	成長促進県
5	●下水道 ●ゴミ処理 ●道路・交通機関 ●都市景観	◎道路・交通機関 ◎都市景観 ◎文化の振興 ●ゴミ処理	◎ゴミ処理 ◎自然環境保全 ●下水道 ●都市景観	●道路・交通機関 ●下水道 ●ゴミ処理	●下水道 ●道路・交通機関 ●都市景観
4	●自然環境保全 ●公害防止 ●イメージアップ ●地域ぐるみの福祉 ●青少年の健全育成 ●高齢者福祉	▽下水道 ●自然環境保全 ●高等教育（大学等） ◎生涯学習社会形成 ●青少年の健全育成 ●高齢者福祉 ●地域ぐるみの福祉	◎公害防止 ▽道路・交通機関 ◎障害者福祉対策 ●地域ぐるみの福祉 ●高齢者福祉 ●青少年の健全育成	●都市景観 ●イメージアップ ●地域ぐるみの福祉 ●高齢者福祉	◎イメージアップ ▽ゴミ処理 ◎高等教育（大学等） ●まちおこし ●青少年の健全育成 ●地域ぐるみの福祉
3	●高等教育（大学等） ●児童福祉 ●障害者福祉対策 ●文化の振興 ●物価安定・消費者保護 ●公平公正な社会 ●まちおこし ●過疎対策 ●公園緑地 ●雇用の安定・拡大 ●交通安全 ●資源エネルギー ●生涯学習社会形成 ●医療 ●国際交流の推進	●イメージアップ ●公害防止 ◎国際交流の推進 ●まちおこし ●児童福祉 ●障害者福祉対策 ●物価安定・消費者保護 ●公園緑地 ●医療 ●公平公正な社会 ●コミュニティ活動 ●学校教育（小中高） ●生活衛生	●文化の振興 ◎資源エネルギー ●児童福祉 ●公平公正な社会 ●高等教育（大学等） ●交通安全 ▽イメージアップ ●医療 ●公園緑地 ●過疎対策 ●生涯学習社会形成 ◎生活衛生 ●物価安定・消費者保護	●物価安定・消費者保護 ●青少年の健全育成 ▽自然環境保全 ●過疎対策 ●障害者福祉対策 ●公害防止 ●まちおこし ●雇用の安定・拡大 ●児童福祉 ●高等教育（大学等） ●公平公正な社会 ●医療 ●生涯学習社会形成 ●公園緑地 ●交通安全 ▽文化の振興 ●住宅宅地	◎高度技術産業 ●商工業・観光 ●児童福祉 ▽公害防止 ●文化の振興 ●障害者福祉対策 ●過疎対策 ◎国際交流の推進 ●公園緑地 ●雇用の安定・拡大 ●公平公正な社会 ▽高齢者福祉 ●交通安全 ▽自然環境保全 ▽物価安定・消費者保護 ●スポーツ・レクリエーション施策 ●資源エネルギー
2	●生活衛生 ●住宅宅地 ●商工業・観光 ●高度技術産業 ●コミュニティ活動 ●学校教育（小中高） ●スポーツ・レクリエーション施策 ●農林水産業 ●幼児教育	●資源エネルギー ▽交通安全 ●スポーツ・レクリエーション施策 ▽過疎対策 ●商工業・観光 ●住宅宅地 ▽雇用の安定・拡大 ●高度技術産業 ●健康づくり ◎幼児教育 ●農林水産業	●雇用の安定・拡大 ▽まちおこし ◎農林水産業 ●住宅宅地 ●国際交流の推進 ●コミュニティ活動 ●スポーツ・レクリエーション施策 ●学校教育（小中高） ●商工業・観光 ●高度技術産業 ●幼児教育 ●健康づくり ●自然災害防止	●国際交流の推進 ●資源エネルギー ●商工業・観光 ●生活衛生 ●高度技術産業 ●学校教育（小中高） ●コミュニティ活動 ●スポーツ・レクリエーション施策 ●農林水産業	▽生涯学習社会形成 ▽医療 ●住宅宅地 ●コミュニティ活動 ●学校教育（小中高） ▽生活衛生 ●幼児教育
1	●健康づくり ●自然災害防止 ●防犯・防火	▽自然災害防止 ▽防犯・防火	●防犯・防火	●幼児教育 ●健康づくり ●防犯・防火 ●自然災害防止	▽農林水産業 ●防犯・防火 ●自然災害防止 ▽健康づくり

◎：全体平均と比較して特に増加が大きいもの。▽：全体平均と比較して特に減少が大きいもの。

6. おわりに

本県においては、毎年、「県政世論調査」を実施しており、県民が求める重要施策についてはある程度の序列を持って把握してきたところであるが、今回の分析により、全施策についての施策の現状評価と施策の重要度が明確になり、今後の施策の組み立てに有効な資料が得られたものとする。

一方、将来像の分析へのAHP手法の適用は、回答方法（対比較）そのものが一般に馴染みのないアンケートの形式となり、回答率が低下したという問題点を残したが、結果的には、代替案として設定した4つの将来像の相互の関係が比較的明確に把握

され、施策の重要度と関連付けることで、代替案そのもののイメージをより鮮明にすることができた。また、将来像と県政施策の関連についても分析を行うことができた。こうした一連の調査・分析は、経年的な調査によって変化を見ていくことに一つの意義があると考えられ、今後、同様の調査を継続して実施していきたいと考える。

【参考文献】

- 1) 木下栄蔵「AHP手法と応用技術」（総合技術センター）1993.8
- 2) 栃木県企画部「『豊かな』栃木県づくりに関する有識者意向調査報告書」1994.3